

紀女郎、大伴宿禰家持に贈る歌二首

七六二番

神さぶと いなにはあらず はたやはた かくし
て後に さぶしけむかも

七六三番

玉の緒を 沫緒に搓りて 結べらば ありて後に
も 逢はざらめやも

大伴宿禰家持の和ふる歌一首

七六四番

百歳に 老ひ舌出でて よよむとも 我はいとは
じ 恋は益すとも